

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査 質問調査の構成について

1. 質問調査の基本情報
2. 令和 8 年度の方針（案）

1. 質問調査の基本情報

<項目数>

- 質問項目数は児童生徒質問80項目程度、学校質問は90項目程度とする。
(回答者の負担を考慮し大幅な総数の増加は避ける)

<内容面>

- これまでのカテゴリーを令和8年度も踏襲。

<参考>

これまでには「毎年度質問項目」「隔年質問項目」及び「3年サイクル項目」で整理。
令和8年度の「3年サイクル項目」はB（教科項目で英語を実施する年度）。

- ・毎年度質問項目：教育振興基本計画等において毎年度測定が必要な項目
- ・隔年質問項目：質問項目を精選する観点から、隔年項目と整理した項目
- ・3年サイクル項目：
 - 【A】理科の調査を実施する年度（R7）
 - 【B】英語の調査を実施する年度（R8）
 - 【C】経年変化分析調査・保護者に対する調査を実施する年度（R6）

1. 質問調査の基本情報

<参考：令和7年度の構成（児童生徒質問）>

児童生徒質問
1. 基本的生活習慣等
2. 挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感
3. 学習習慣、学習環境
4. 地域や社会に関わる活動の状況等
5. ICTを活用した学習状況等
6. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
7. 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
8. 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）
9. 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）
10. 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）
11. 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）

1. 質問調査の基本情報

＜参考：令和7年度の構成（学校質問）＞

学校質問
1. 学校規模等
2. 生徒指導等
3. 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況
4. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
5. 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法
6. 学習評価
7. 国語科の指導方法
8. 算数〔数学〕の指導方法
9. 理科の指導方法
10. 英語科の指導方法
11. ICTを活用した学習状況
12. 特別支援教育
13. 小学校教育と中学校教育の連携
14. 家庭や地域との連携等
15. 家庭学習
16. 調査結果の活用

2. 令和8年度の方針（案）

＜内容面（全体の方針）＞

- 政策として経年比較が必要な項目は残す。左記に該当せず、国・教育委員会や学校いすれにおいても活用していないと想定される項目は削除を検討。
- 特に学校質問において、否定的回答（あまり当てはまらない・当てはまらない）が5%未満が経年で確認され、政策への活用が相対的に低いと想定される項目については削除を検討。
- 質問の趣旨が一義的でない項目（回答者によって複数の解釈が想定される項目）については、文言を見直し。

2. 令和8年度の方針（案）

＜内容面（全体の方針）＞

- 国や教育委員会における、施策の企画立案を主目的とする児童生徒質問項目については、ランダム方式で行うことで、新規項目として追加することも可能とする。
- 現在重点的に推進している施策や、今後推進していくべきと考える施策で、かつ、対外的に特にエビデンスが必要とされている事項は、内容を精査の上、新規項目として追加を検討。

＜内容面（特に留意すべき観点）＞

- OPISA2025、TIMSS2023、学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（CBT導入後の質問調査の設計・実施に関する試行・検証）等の質問調査のうち、本質問調査の検討において参照すべき項目はあるか（国際調査との比較、既存の質問調査における検討や文言の整合性の観点）。
- ICT関連の質問は、これまで使用時間等の定量的な質問が主だったが、活用の質的な質問について検討することも考えられるか。

2. 令和8年度の方針（案）

＜内容面（その他）＞

- これまで、全国学力・学習状況調査においては、性別（男女いずれか）の項目について、回答を強制するものではなく、空欄であっても次の項目に進める設計。
- 調査結果は、客観的な男女別の状況の分析に活用しており、さらに充実を求められている（令和7年度の調査においては、算数・数学、理科の平均正答率・スコアの大きな男女差は見られない一方、「得意」と考える割合は、女子の方が男子より低い状況にあった）。
- 政府全体や国際調査の動向も踏まえて、男女別データを政策に生かす観点から、引き続き「男」「女」の項目を維持するとともに、多様な性への配慮の観点から、「どちらにもあてはまらない」「回答しない」を加え、合計4つの選択肢とする。

●第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月25日閣議決定）（抄）

男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計（ジェンダー統計）の充実の観点から、各種統計の整備状況を調査し、公表する。また、ジェンダー統計における多様な性への配慮について、現状を把握し、課題を検討する。

●ジェンダー統計の観点からの性別欄の基本的な考え方について（ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ取りまとめ（内閣府男女共同参画局 令和4年9月））（抄）

2. ジェンダー統計の観点からの性別欄の基本的な考え方のポイント

我が国の男女間格差が依然として大きい現状を踏まえれば、その解消に向けて、EBPMを実施する観点からも、男女別のデータを確実に取得することが重要。したがって、性別欄の有無に関する拙速な対応は慎むべきと考える。性別情報を取得する際には、性別欄が存在することでハラスメントや差別に通じる困難に直面する人たちの存在を理解し、配慮することも必要。議論の中では、国際的には既に統計調査において性的指向・性自認（性同一性）に関する質問項目を採用している国も存在することなどから、多様な性への配慮に留まらず、性的マイノリティの実態や課題の把握について実態を把握するべきだという意見があった。一方で、どのような質問項目や選択肢を設定するかについては、性別情報を取得する目的が調査によって異なり、それぞれの調査において取得の目的を十分に精査する必要があることなどから、丁寧に検討を行うべきであるなどといった意見もあった。こうした議論を経て、本ワーキング・グループとして、男女以外のデータを取得する場合の、適切な質問項目や選択肢を示すまでには至らなかった。

2. 令和8年度の方針（案）

【参考】他調査での事例

PISA2025

生徒質問調査問2 あなたの性別をお答えください。あてはまるものを一つ選んでください。
男／女／回答しない

学校質問調査問6 あなたの学校（学科）の生徒数は何人ですか（2025年5月1日現在）。
男子／女子

TIMSS2023

基本的には男女別の結果のみ公表（「どちらにもあてはまらない」と答えた児童生徒は集計に含めない）。

教師質問調査については、教師の性別（三択）・年齢ごとに指導を受けている児童生徒数の割合を公表。

児童生徒質問調査問1 性〔せい〕別についてお聞かせください。どれか1つを選んでください。
女／男／どちらにもあてはまらない

教師質問調査問2 性別についてお聞かせください。どれか1つを選んでください。
女性／男性／どちらにもあてはまらない